

サハリンで北方少数民族の 祭りを見た(二)

さいとう
斉藤 マサヨシ (写真家)



ニブフ語で「皆さんに会えてうれしい」とロシア文字で書かれた横断幕が張られた砂洲で北方少数民族祭りのイベントが繰り広げられた。

民族衣装を着た子供たちが八人登場。高らかな声で合唱、伴奏はない。歌の内容は分からないが、民族が伝承している歌であると説明を受けた。澄みきったその声は風に乗ってオホーツク海に流れていた。

カンカンコン、丸太の打楽器が響くなか、民族衣装を着た女性たちによる民族伝統の踊りが始まった。まず、若松の小枝を手にした二人の女性が登場。若松の小枝を持った手が優雅に舞う。山の神様に奉げる踊りだ。

今度は、網を持った女性二人が登場。これは漁師の踊りだ。そして裸木のバチを手にした六人の女性が出て来た。お互いにバチを打ち合う威勢のよい踊りだ。

踊りの最後は、一人の女性による熊の踊りだ。そのしなやかな手使いと腰使い、緩急をつけた動きには、すっかり魅了された。太く長い綱が出て来た。その綱をグリーン・グリーンと回し始めた。民族衣装を着た男の子が登場。男の子は勢いよく、回る綱の中に飛び込んだ。そして宙返りや側転など軽々とした身のこなしで綱を跳ぶ。もう一人の男の子も綱の中に入ってきた。二人は呼吸がぴったりだ。見事な演技に会場には拍手が鳴り響いていた。

この後、会場の砂洲では、男たちによる相撲、高跳び、綱引きなどの競技が行われ、熱い声援が飛び交っていた。

昼になり、近くにある木造の倉庫でご馳走が振る舞われた。そこには北方少数民族伝統の料理が並んでいた。ハマナス(ニブフ語でチェヴィイ)のジャムは黒パンに付けて食べるととても美味しく「オーチン・フクースナ」(ロシア語で「とても美味しい」の意)と声を上げた。そのほかには、塩鮭の腹身(タクル)、ガンコウラン(ウズグアルス)の実と鮭を和えた一品、つぶしたイモにコケモモとアザラシ油を和えたムヴィという料理は独特のくせがあった。

午後になり最後のイベントとなった。熟練した女性たちによる鮭のさばき競技だ。鮭を一本、より早く、より綺麗に、一つの無駄もなくさばく。そして会場に集まった人々にそれぞれの部位の食べ方を説明して、一番拍手の多い人が優勝だ。勝ったのは白髪で初老の女性であった。

曇り空に晴れ間が見え、夕陽が砂洲を染める頃に祭りは終わった。

〔写真説明〕 北方少数民族祭りで、宙返りや横飛びなどアクロバティックな縄跳びを見せてくれた子供たち。右下の写真は熊の踊りを披露してくれた女性。二〇〇六年七月八日、ロシア・サハリン州ポロナISKにて撮影。